

# 記者発表（配付）資料

平成 23 年 3 月 30 日

所属部課	館 長	副 館 長	担当	連絡先
総合政策部 萩博物館	高木正熙	樋口尚樹	一坂太郎	25-6447

件 名	高杉晋作資料室テーマ展示 「生誕 170 年記念 吉田稔麿の生涯」の開催
-----	---

本年、平成 23 年（2021）は、吉田稔麿（栄太郎）が萩の松本村新道に生まれて、170 年の節目にあたります。稔麿は高杉晋作・久坂玄瑞と共に松陰門下の三傑と称されますが、元治元年（1864）6 月、京都で勃発した池田屋事変のさい、波乱に満ちた 24 歳の生涯を終えました。後年、維新の元勳となった品川弥二郎は、稔麿が生きていたら総理大臣になったと語ったと伝えられるほどです。しかしその名や業績は、高杉・久坂に比べて決して広く知られているとは言えません。

萩博物館には萩本陣様から寄託していただいた吉田家旧蔵史料があります。これらを中心に、稔麿の実像をご紹介する展示を 3 期に分けて行います。この機会にぜひご覧いただき、幕末の青年の熱い志に触れていただければ幸いです。

- 会 期 : (第 1 期) 平成 23 年 4 月 1 日 (金) ~ 7 月 31 日 (日)  
(第 2 期) 平成 23 年 8 月 ~ 11 月  
(第 3 期) 平成 23 年 12 月 ~ 平成 24 年 3 月
- 会 場 : 萩博物館高杉晋作資料室 (山口県萩市堀内 355 Tel.0838-25-6447)
- 開館時間 : 午前 9 時 ~ 午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)
- 展示内容 : 第 1 期については次の 12 点を展示します。
  - 吉田氏譜 (萩本陣蔵)  
栄太郎 (稔麿) が 5 代前からの自分の先祖について書いた。
  - 吉田栄太郎日記 (萩本陣蔵)  
嘉永 6 年 (1853) 3 月、13 歳の栄太郎 (稔麿) は家計を助けるため藩の雑役として江戸に赴く。同年 6 月、アメリカのペリー率いる黒船艦隊が江戸湾に来航し、強引な態度で幕府に開国を迫った。栄太郎はくしくもリアルタイムで、外圧により国が開かれてゆく様を目の当たりにした。その衝撃からか、小幡源右衛門に槍術を学んだことなどが記された自筆の日記。
  - 吉田稔麿 (栄太郎) 生家遺構写真 (萩博物館蔵)  
松本村新道 (現在の萩市椿東) に昭和 50 年代半ばまで、幕末当時の建物が残っていた。この写真は昭和 55 年 (1980) 9 月、田中助一氏撮影。

④栄太郎に期待する吉田松陰の手紙（萩本陣蔵）

安政4（1857）8月28日、江戸番手御供小使として萩から江戸に赴くことになった吉田栄太郎（稔磨）に、餞別の上張地を添えて送った。幽囚されている自分に代わり、志を遂げて欲しいと述べる。九月五日、出発する栄太郎に、松陰は桂小五郎あての紹介状を持たせ送り出した。

⑤晋作が栄太郎を激励した送序（萩本陣蔵）

江戸に赴く栄太郎（無逸）に安政4年（1857）8月ころ、高杉晋作が送った激励の言葉。初めて高杉と会った時、「神彩英暢、眼光射人」だった栄太郎は、共に語り合うに値する人物だったと高く評す。

⑥斎藤栄蔵が栄太郎を激励した送序（萩本陣蔵）

⑦僧許道が栄太郎を激励した送序（萩本陣蔵）

⑧中谷正亮が栄太郎を激励した送序（萩本陣蔵）

⑨入門一年目の松陰あて栄太郎書簡（萩博物館蔵）

安政4年（1857）11月25日、江戸から萩の松陰にあてた。松陰の手紙により、松下村塾が盛況であるのを知った栄太郎は喜び、高杉晋作や入江杉蔵（九一）、利助（伊藤博文）などについても言及する。冒頭に書かれた追伸に「去年の今日」、はじめて松陰の門をくぐったことが記されている。入門一年目という記念日にあたり、手紙を書きたかったようだ。

⑩里村文左衛門あて栄太郎書簡（複製（『勤王諸士遺墨帖』三））

安政5年（1858）6月10日栄太郎が江戸から、藩地の伯父（栄太郎母の末妹の夫）に時事を知らせた。同年1月、幕府は日米修好通商条約の勅許を求めようと周旋するが、88人の公家による反対運動などもあり失敗。このため、勅許を得ぬまま条約が締結されたのは同年6月19日のことで、孝明天皇は激怒し、幕府に対する世の非難が高まってゆく。終わりの方には松陰門下の入江杉蔵（九一）・野村和作兄弟を紹介したり、11歳年の離れた妹お房の成長を喜ぶ一節もある。

⑪松浦松洞より栄太郎あて書簡（萩本陣蔵）

⑫父を心配させまいとする栄太郎の手紙（萩本陣蔵）

安政6年（1859）2月19日、萩から江戸にいる父清内にあてた。1月13日、同18日、同25日に父から教訓があった。父にすれば、老中暗殺を企むなど過激な言動が目立つようになった松陰に、大事な一人息子を接近させるわけにはいかない。それが理解できるだけに、栄太郎はこの手紙を書き送り、今後は心配をかけまいとしている。

5. ギャラリートーク : 一坂太郎特別学芸員が展示解説します。

と き 4月30日（土）午前11時～、午後2時～（約30分）

参加料 無料（ただし、観覧料は必要）